

社会福祉学科 AO 入試課題

次の課題A・B・Cから一つ選び、あなたの考えを述べなさい。文字数や枚数の指定は特にありません。

○手書きの場合

エントリーシート裏面「課題レポート記入欄」に記入し、記入欄が不足する場合は、別紙（記入欄をコピーしたもの）を利用してもよい。

○パソコンで作成する場合

WINDOWS で扱える文書ファイル（ワード、テキスト等）で作成し、A4縦用紙に横書きする。ただし、行・文字数、間隔等の指定は特にありません。

【社会福祉学科 課題 A】

以下の文章を読んで課題に答えて下さい。

曾野綾子『老いの才覚』ベストセラーズ 2010年09月 p.140-141

病気も込みで人生、という心構えを持つ

病気はしないと決心して、あらゆる予防処置をしたほうがいい。しかし病気がない人生は、たぶん非常に少ないと思います。そうであれば、「機能と五感が正常であるのが人間だ」という発想を、変えたほうがいいですね。つまり病気も込みで人間、いいことも悪いことも込みで人生だ、という心構えをしておく必要があると私は思っています。

病気は、決定的な不幸ではありません。それは一つの状態です。病気になると、なかなかそうは思えませんが、決して悪い面ばかりではない。病苦が人間をふくよかなものにするケースはよくあります。

それは、その時まで自信に満ちていた人も、信じられないくらい謙虚になるからです。謙虚さというものは、その人が健康と順境を与えられている時は身につけることがなかなか難しいのです。

病気によって、新しい生き方を発見する人もいます。十代で階段から落ちて下半身不随になり、車椅子の生活になったら、車椅子の人たちのために働き始めたとか、結核で入院していた四年間に人生を見つめ直して神父になったとか、そういう例はいくらでもあります。

私自身も、健康で恐れるものが比較的なかった時にも学びましたが、怪我で自信を失った何度目かの時に、もっと深く人生を味わったような気もしました。病気になった時、うまくいけば、とてもいい時間を持つことができるかもしれない。そうできるかどうか、人間の一つの能力で才能なのかもしれません。

病の結果として、片耳が聞こえなくなったり、視力が衰えてきたり、元へ戻らない状況になる場合もあるでしょう。私の知り合いに、抗がん剤の後遺症で匂いを全く感じるができなくなった人がいます。しかし、それでも料理はうまくて、今も食いしん坊です。そういう、みごとな人もいます。

【課題】

この文章は「受容と希望」というテーマで書かれています。

文章の内容を要約し、あなたが考える病気やけが、障害のある方と向き合う姿勢と福祉社会の形成について述べてください。

【社会福祉学科 課題 B】

以下の文章を読んで課題に答えて下さい。

野中猛『私の療養日誌』 「みんなで野中先生の本を作ろう」プロジェクト 2013年09月
p. 15

がん治療急性期 2013. 2. 17

私がすい臓がんステージVI bの「宣告」を受けたのは二ヶ月前であった。その後のひと月あまりは、妻と二人でとんでもなく忙しい日々を暮らすことになった。

いまやがんは慢性疾患という側面もあって、すぐには死なないけれど、完治もしないわけだから、慢性疾患をもつ患者としての「能力」（知識、技能、心構え）を身につけなければならぬ。しかも、形だけは「説明と責任」の体制になっているから、ちゅうちょなく高度な治療法の説明をして自己選択を求められる。「宣告」をされたその日に自己選択が求められる。私は精神科医で妻は療養介護病院にパートで勤める看護師であるが、さすがにその場で分子標的薬の説明が理解できたわけではない。しかし、選ばなければならないのである。

【課題】

この文章は「インフォームドコンセント（説明と同意）」というテーマで書かれています。

あなたはこれから保健・医療・福祉の分野で何を学んでいきたいと考えていますか？。将来に向けての進路選択とそれに伴うこれからの学習目標について述べてください。

【社会福祉学科 課題C】

以下の文章を読んで課題に答えて下さい。

清水久美子『しょうちゃんの夢のバス』 騒人社 2000年04月

しょうちゃんの夢のバス 著者:清水久美子 発行所:株式会社 騒人社

しょうちゃんが育ったのは、ひきみ町という、山に囲まれたのどかな町。小学校だって二十人の生徒しかいない、そんな小さな町だった。

末っ子のしょうちゃんは、二人のお兄ちゃんがだーい好き。ヨチヨチあとを追いかけては、二人のまねをして得意顔。おしゃまで、やんちゃで、人なつっこくて、小さなしょうちゃんは、町の人気者だった。だけど……

三歳のときに、病気が発見された。ミトコンドリア脳筋症とって、からだがだんだん動かなくなる病気。息を吸うことも自分でできなくなる、それは、こわい病気だった。

しょうちゃんの病気を治すために、しょうちゃん一家は、住みなれた町を引っ越すことになった。「元気になって帰っておいで」「きっと帰ってくるんだよ」町みんなが、しょうちゃんを見送ってくれた。

大きな町の大きな病院で治療を受けたけれど、しょうちゃんの病気は、少しずつ、少しずつ、進んだ。その病気は、治療法もまだ発見されていない難病なんだ。だから、お医者さまも病気の進行を止められない。

あんなに元気に駆けまわっていたのに、話すことができなくなって、笑うこともできなくなって、歩くことさえできなくなった。とうとう目も見えなくなったとき、しょうちゃんは、悲しくて、くやしくて、大粒の涙を、ポロポロ、ポロポロ……流した。もう涙を流すことしか、しょうちゃんにはできないんだ。自分で息をすることもできなくなったしょうちゃんは、人工呼吸器をつけて、病院のベッドに寝ている。つぶらな目をぱっちりあけて。でも、もうなーんにも見えないんだ。つらい治療のときは、涙がひとすじほおにこぼれる。苦しいんだね、しょうちゃん。

だけど、しょうちゃんは、寝ているだけじゃないよ。養護学校の先生が、週に三回やってきて、病室で授業をしてくれるんだ。手足を動かすと、とつてもとつても痛いけど、動かなくなってしまわないように、先生といっしょに、粘土細工もやるんだよ。なんにも言えないけれど、病気とたたかっているしょうちゃん。

お父さんとお母さんは、考えた。しょうちゃんを喜ばせたい、しょうちゃんが喜ぶことってないだろうか。一生懸命考えた。

そうだ、そうだ、あるよ、ある！

しょうちゃんは、小さいころから、バスが大好きだった。病気になる前の、しょうちゃんの夢は、バスの運転手になることだった。入院前のまだ元気だったとき、「将来、何になりたいですかあ」とお父さんが聞いたら、しょうちゃんは「バスの運転手になりたいでー

す」と言っていた。

しょうちゃんの夢を実現させたい！お父さんとお母さんは、そう思った。

【課題】

この文章は「夢の実現」というテーマで書かれています。

あなたはこれから対象者やその家族をどのように支援していきたいと思いますか？。この文章を基に福祉的支援のあり方についてあなたの考えをまとめてください。

【社会福祉学科 AO 入試課題の作成について】

AO入試の性格上、受験生が本学科での4年間において本人の関心分野もさることながら、どのような「夢」をもち自分自身の本来持っている能力をどのように伸ばして、在学中、また卒業してから社会にどのように貢献していきたいのか、具体的に問う問題である。

さらに、在学中の履修指導にもつなげていく事を想定して出題している。

課題 A は、本課題はアドミッションズオフィスが設定する「本学が求める人材像」*の中で、社会福祉学科が特に求める人材像である**[2]**（家庭・地域社会などで結ばれた人々の集団であるコミュニティの問題に関心がある人）を基に課題を作成している。

課題 B は、「本学が求める人材像」*の中で、社会福祉学科が特に求める人材像である**[1]**（「福祉の心」を持ち、福祉社会の実現に寄与することを希望する人）を基に課題を作成している。

課題 C は、「本学が求める人材像」*の中で、社会福祉学科が特に求める人材像である**[7・8]**（社会福祉関連の活動に従事している人、ボランティア活動をしている人）を基に課題を作成している。

* 本学が求める人材像(本学入試ガイド・学生募集要項より)

- [1] 「福祉の心」を持ち、福祉社会の実現に寄与することを希望する人
- [2] 家庭・地域社会などで結ばれた人々の集団であるコミュニティの問題に関心がある人
- [3] 世の中の動き(社会や経済のシステム)に敏感である人
- [4] 外国語が好きで、留学や国際社会での活躍に関心がある人
- [5] 特色ある活動に継続的に取り組んできた人
- [6] 環境・国際交流などの民間活動・地域活動に取り組んできた人
- [7] 社会福祉関連の活動に従事している人
- [8] ボランティア活動をしている人